

救急医療活動への支援

- 高速道路を利用することにより、救急搬送時間が最大で約12分短縮され、迅速な対応及び定時性が確保されました。
なんたん
- 南丹医療圏からの救急搬送先の選択肢が1箇所から4箇所に広がり、柔軟な対応が可能となりました。



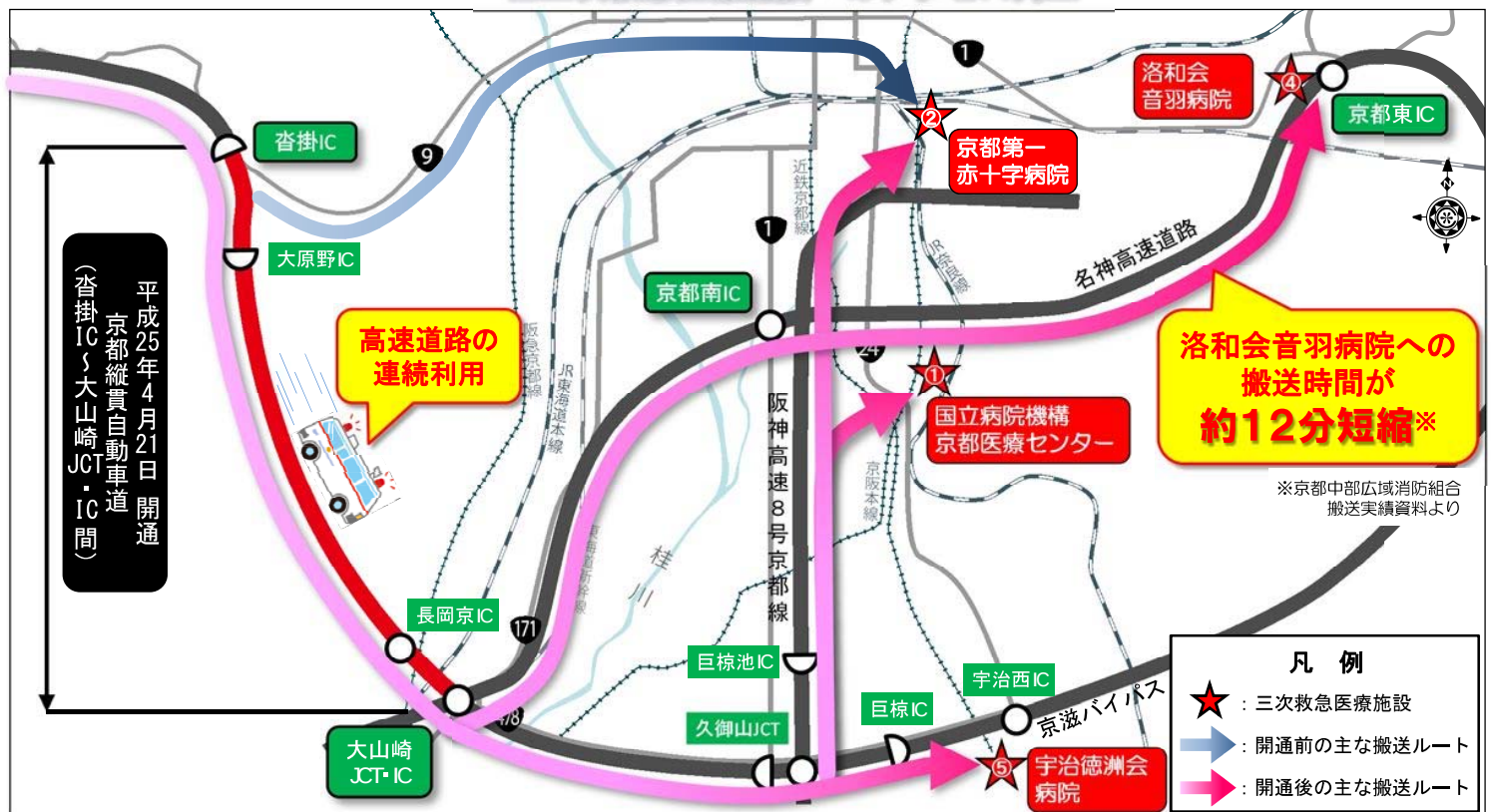
京都縦貫自動車道開通により救急搬送に大きなメリット

- 高速道路の連続利用が可能となり、搬送距離が伸びるものの、**搬送時間の短縮が図られています。**
- 高速道路が整備されたことで、様々な病院への搬送が可能となったことから、**搬送先の選択肢が広がっており、現場の状況に応じ柔軟かつ迅速な対応が可能となりました。**
- 高速道路利用により、スムーズな走行が可能となり、**傷病者への負担軽減につながっています。**(ストップアンドゴーの軽減)
- 常に京都市内の渋滞を回避できる事で、搬送時間に**バラツキがなくなり、時間がよめるようになりました。**

三次救急医療施設	
①	国立病院機構 京都医療センター
②	京都第一赤十字病院
③	京都第二赤十字病院
④	洛和会音羽病院
⑤	宇治徳洲会病院
⑥	市立福知山市民病院

京都中部広域消防組合

■三次救急医療施設へのアクセス向上



三次救急医療施設：一刻を争う重篤な救急患者などを24時間体制で対応できる、高度な診療機能を持つ医療施設